



研究者名※	森下 佳菜	学位※	修士(文学)
所属※	人間社会学部 文化学科	職名※	助教
連絡先	@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/morishitak-1		
研究分野※	日本美術史		
研究キーワード※	近世絵画史、十八世紀京都、異国趣味		
共同研究・競争的 資金等の研究課題			
社会貢献・産学官 連携活動等			
受賞歴			

研究領域	日本美術史	(SDGs)
研究テーマ※	十八世紀京都画壇における異国表象に関する研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 近世絵画史のなかで、とりわけ十八世紀の京都画壇は個性的な画家が台頭し、近年注目される。また、文化の中心地であった当時の京都では、博物学的関心の急速な高まりとともに、黄檗宗の伝播や南蘋派絵画の流入、中国趣味や琉球物の流行といった異国趣味の傾向が強まり、文化史的にも看過できない。そこで、異国趣味や異国認識が取り込まれたとみられる外来植物(とくに熱帯植物)を描いた絵画作品研究に取り組み、それらモチーフを採用した背景と享受者について、美術史的視点だけでなく文化史的視点からも考究することによって、十八世紀京都画壇の制作環境を明らかにすることを目指している。とくに伊藤若冲の作品研究を足がかりとして研究を進めている。</p> <p>【応用例、研究の展望】 十八世紀京都画壇が活躍した時代は、京都を中心とした文化的ネットワークが琉球や薩摩、長崎まで広がっており、幅広い視野で捉えていく必要がある。今後は、同時代の京都以外の地域で活動した絵師にも注目し、前後の時代との比較も試みたいと考える。研究対象の地域および時期を拡大することにより、本研究の解明のみならず、近世絵画全体としての特質も明らかにすることが見込まれる。また、外来植物以外の異国表象にも注目していきたい。</p> <p>【研究方法の特色】</p>	
本研究関連 特許・論文等	<p>・「若冲画に描かれた熱帯植物について—金刀比羅宮奥書院障壁画「花丸図」を中心に—」『紀要』第26号(日本女子大学大学院人間社会研究科)、97~124頁、2020年3月</p> <p>・「伊藤若冲筆「鹿苑寺大書院障壁画」再考—選択されたモチーフの意味と室空間におけるその役割」『紀要』第25号(日本女子大学大学院人間社会研究科)、112~138頁、2019年3月</p>	
共同研究・外部機関 との連携への期待		